

## 今後の展望 一第三者評価委員会による評価報告を受けて

京都情報大学院大学自己点検・評価委員会

京都情報大学院大学応用情報技術研究科は、自己点検・評価報告書、及び実地調査等に基づく第三者評価委員会による評価の結果、専門職大学院として十分評価基準を満たし、きわめて優れたものであるとする“A（総合評価）”認定をいただきました。

本学の進めてきた教育とその実績を学会・産業界双方から高く評価していただいたものと捉え、これまでの方針を更に進めて、より一層の専門職技術者の育成・教育に邁進したいと思います。

第三者評価は自己点検・評価報告書と、実地調査の結果に基づいて評価をしていただいたものであり、全体として本学の活動や取り組み状況について大変高く評価していただきましたが、実地調査では、授業見学・質疑応答など、時間的な制約もあり、十分に内容をお示しできなかった点もありました。また、日程の都合等で実地調査にご参加いただけなかった評価委員の方には、自己点検評価書および限られたヒアリングに基づいて評価をいただきました。その結果、多くの項目にA評価をいただきましたが、明確に判断できない等で、“B”評価となった項目もありました。この点は次回以降の評価において改善すべき事柄ととらえています。

一方、私どもが十分に認識していなかった点をご指摘いただくなど、評価委員の先生方からいただきました貴重なご意見やアドバイスを参考に、今後とも改良を加えていきたいと考えていますが、特に以下の点を、これからの重点課題としていく所存です。

- ・ 日本最初のIT専門職大学院大学として、社会に対して担っていくべき使命を認識・自覚させるように積極的な教育を行います。さらに、IT専門職技術者の地位向上を目指し、広報的側面からの社会へのアピールと啓蒙を推進し、専門職大学院の必要性・重要性の浸透と社会からのより一層の認知・認識の向上を目指します。
- ・ 専門職大学院と企業との間において、学生、修了生、あるいは企業社員といった人材を結び合わせるネットワークを組織的に構築します。また、そのネットワークを活用した教育体制の構築（産学連携教育体制の構築）を検討・推進し、広範かつ多様な人材育成のための連携ネットワークを具体化します。
- ・ IT専門職大学院として、新たな社会的活動の実現、例えば、課程修了プロジェクト（従来の研究大学院の修士論文に変わるもの。アメリカのプロフェッショナルスクールで課

されている、クリニカルプロジェクトなどと呼ばれるもの)で創出されたシステム、ソフトウェア、コンテンツなどを企業へ提供、ライセンスするといった知的財産の普及利用を目指します。

- 教育効果の定量的な計測評価法として開発してきた学習者の評価プログラム(ラーニングアウトカムの計測)は、今回の第三者評価においても、教育評価指標として極めて優れたものであるとのご意見をいただいておりますが、このプログラムを他の機関でも利用できるような体制・システム作りを推進し、専門職大学院の定量的・科学的評価方法として利用できるような組織構築を検討します。さらに、現在、アメリカで標準化が始まっている、大学の「ドキュメンテーション・サクセス」を導入する予定です。